

第5回市民自治推進委員会議事概要

1 日 時 令和2年2月14日（金） 10:00～11:40

2 会 場 鳥取市役所本庁舎 6階第4会議室

3 出席者

(1) 委 員 中川委員長、下澤委員、倉持委員、佐々木委員、椿委員、宮崎委員、清水委員、鈴木委員（順不同）8名出席

(2) 鳥取市 （協働推進課）谷口課長、宮崎課長補佐、平野主事
（生涯学習・スポーツ課）山本係長

4 議 事

(1) 報告事項

地域組織のあり方検討について

(事務局)

【資料1、2、3、4説明】

(委員)

平成30年度に宮下がモデル地区として取り組んでおられたが、令和元年度は降りられた主な要因は何だろうか。

(事務局)

降りられたということではなく、関心があってやっていきたいという思いはあるが、地域の皆さんにどうやって説明していくのかといったタイミングをまだ見ていく状況にあるのかと思っている。

(委員長)

実質的にはかなり公民館と一体となった動きをされている地域ではある。運用上はあまり変わらないが、ゆっくりと仲間を増やしていきたいと言われていた。また、いきなり予算を一本化することは考えていないと最初の頃から話されていた。引き続きアプローチしていただければと思う。

続いて協議事項①自治基本条例の見直しについて事務局から説明いただきたい。

(2) 協議事項

①自治基本条例の見直しについて

(事務局)

【資料5説明】

(委員長)

皆さんから視察の報告をいただいております、それを踏まえて一人ずつ、行かれた場所と気づかれた部分等をご報告いただきたいと思う。

(委員)

私は朝来市の方に行かせていただいた。正直に感じたのは、地域の人口規模や生活環境が自分の住んでいるところと違っていた。みんなを巻き込んでどの団体も一緒になって計画や活動をされているのはすごくいいことで理想だと思ったが、現実に私が住んでいる地域でも、役をする人がいろんな会で重複して役をしないと運営できないような組織の状態となっており、自治会の活動、まちづくり協議会の活動、そして自分のところの団体の活動となると役員になっても出ることばかりでなり手がいないというのが現状である。これから見直しをしていくのであれば自治会の中に各種団体が入るといった組織の見直しをしていただきたいと思う。モデル地区の3地区についてはとてもいいと思うが、もっと市内の人口が増えているような地域もモデル地区に加えていただきたい。

(委員)

私は朝来市の与布土地区に視察に行かせていただいた。資料1で鳥取市のモデル地区が報告しておられるが、成果が見えてこない感じがしている。与布土地区は地区の特色が出された事業をされていた。また、地域の住民から幅広く意見を聞いておられた。これは地域自治の中で一番の基本だと思う。私は去年自治会長をやったが、役員以外の地域住民の皆さんに提案を投げかけていかないと、住民の皆さんが地域自治から離れていくことを知った。与布土地区は住民を巻き込んでいろいろな事業を展開している、これは本当に素晴らしいと思うし、今公民館がコミュニティの機能がなされているかと言うとそうではないように思う。

もう一つは、教育という要素がない。小さいころから地域愛という教育をしておかないといけないと思うし、そういう組織作りをしていく必要があるかと思う。そういう部分では鳥取市が提案していることは失礼だが、ありきたりではないか。アドバイザーを派遣すると言っているが、理論ありきではだめで実践ができる人でないと誰もついてこない。

(委員)

私も朝来市に行ってきた。まず自治基本条例についてだが、鳥取市自治基本条例の危機管理について、協働の視点が欠落しているように思った。災害発生時に大事なのは市民と連携協働して取り組むこと。朝来市の基本条例の第28条の2には「市長等は、災害等の発生時には、市民及び関係機関との連携及び協力により、速やかに状況を把握し、必要な対策を講じなければならない。」と協働の取り組みが明記されている。これは非常に重要な部分ではないかと思う。

2点目の地域組織のあり方について、地域組織の事業展開の原動力は自分の住む地域をより良くしようという情熱だと思うが、朝来市は、「自考・自行、共助・共創のまちづくり」を基本理念にされている。これを明記することが必要ではないかと思った。マンパワーと財源には限度があるため、事業内容を地域課題に特化して選択と集中を図る必要がある。その意味でも組織や財源の見直しが必要だと思う。朝来市では、地域自治協議会が地域組織の基盤になっていてそこに財源が一括で交付され、そこからマンパワーもお金も配分していた。その辺りは非常にいいと思った。朝来市、鳥取市も大分近づいているが、イベント型の地域行事ではなくサービス型の事業に重点を置いていくことが大事だと思う。ただ、鳥取市の地域と与布土地域とは人数の規模が違っており、都市型の数千人規模の住民ニーズをシンプルに集約するのはなかなかしにくい。町内会に入っておられる家庭とそうでない家庭があることも大きなギャップになる。その辺りが難しい面だと感じた。

一括交付金については、朝来市は必要経費の算定基準を明確にされておられ、非常にいいと思った。また、市内一律の事務局運営費を設定されておられるが、小規模集落や高齢化率の高いところには補助率の加算措置が取られており、住民を大事にした取り組みと思った。

地域における公民館運営については、朝来市は合併前は公民館がなく、中央公民館だけであるなど、鳥取市とはスタートが違う。指定管理者制度にしても小規模多機能自治にしてもスタートも状況も違いすぎるので即このシステムを取り入れるというのはどうかと感じている。

(委員)

私は新見市の方に行ってきた。自治基本条例について、新見市まちづくり基本条例の第1条に「住民自治を基本とした協働によるまちづくりを推進することを目的」と書いてある。地域のことは地域の方にしていただくということを前提にした上でないとなかなか物事を進めることができない。行政にも限界があり、基本的には地域を地域が運営する方向に進めていく必要があると感じるので、このあたりをはっきりと明記したほうがいいのではないか。

地域組織のあり方についてだが、新見市では地域組織を一本化することを目的として地域共生社会推進チームを構成して各地域に出向いていると伺った。鳥取市でもモデル地区で取り組みが行われているが、地区でそれぞれ事情があるし、これを進めようと思った場合、相当な時間と力が必要になるというのが簡単に想像できるので、この辺りは慎重に進めた方がいいと思う。ただ組織の担い手や地域の役員の不足など、限られた人やお金や物の中で一本化は避けて通れないと個人的には思っている。また、一本化の中に福祉や教育といった部分をどういう風に盛り込んでいくのかということも検討課題と感じた。福祉については地区社会福祉協議会が各地域にある。この組織もかなり歴史を持っている団体なので、そのあたりの兼ね合いも考えていかないといけないと思う。

一括交付金については、組織の一本化とセットで議論を進める必要があると思う。一本化した方が出す方も受ける団体も楽だと思うので、それなりのメリットはあると思う。

地域による公民館運営については、今の公民館は、社会教育と生涯学習の場でありながら事実上いろんなことの地域拠点になっていると思う。それを踏まえて、公民館に自由度を与えると言うか、ある程度地域に裁量をお任せして教育、福祉、防災、生涯学習といったものの拠点として、今後は進めていただいた方がいいと個人的に思っている。あくまで地域の拠点であるということ念頭に進めた方がいいのではと感じた。

(委員)

私も新見市に行ってきた。新見市でまず感じたのは、地域とのコミュニケーションを図るスキルをしっかりと身につけた職員が地域の方に出ていると、地区の将来や地域住民との協働といった部分を見据えて動いておられるという印象を持った。お話を伺って素晴らしいと思ったのは、短期的にも地域の担い手というのはどの地域も困られているとは思いますが、あえて中長期的な部分をセットで見据えて、地域の中学生に地域に触れさせようということ。住民アンケートの対象も中学生以上からだし、地域の寄り合いにも中学生に参加してもらい、中学生の発言に丁寧に耳を傾けておられたということはすごく印象的だった。

公民館について、新見市が話しておられたのは、公民館はいろいろな場で地域の重要な役割を果たしてきており、それをこれからなくすのではなく引き継ぎながら地域の変化に応じて地域の拠点が果たさなければいけない役割や機能についてしっかりと対応していきたいということ。農家が多い地域の事例を紹介いただいたが、過疎地域という買い物難民という表現が使われると思うが、高齢の農家にしてみると自分たちが作った作物を出荷するところがない出荷難民化というのも非常に重要な問題だと話しておられた。従来の公民館のルールで

言うと、公民館で商売なんてなかなかさせてもらえないが、例えば公民館みたいな地域の拠点で地域の方々を相手に規格外の野菜とかを格安で商売しながら、コミュニケーションを図るといった機能もあつたらいいといった事例を紹介いただき、ああなるほどと感じた。

(委員長)

最後に私から。私も新見に行ってきたが、特に条例の部分がいろんな地域運営の土台になるという話を新見市ではされていた。我々はそれを実感していないまま運用しており、決めた後それをどう使っていくのかが大事だと思った。

地域組織のあり方については、新見市は旧市のエリアから始まっているとあって、合併前の自治体のエリアの様子が見えなかったのがどうなっているか、鳥取は逆に合併前の自治体エリアの方が早く話が始まっているというギャップがあるので、そこはお互いが学べるところではないかと思っている。ポイントだと思ったのは、地域側に対して負担はあるが住民アンケートを必須にして始めさせているという仕組みはよいと思っている。ある程度の人数で話をしたあと、次の展開をどうするかという時の参考値がないとやりにくいし、住民アンケートをやると必然的にみんな知ることになる。回収率や自治会に入っていない方々がおられるという点にハードルがあるとは思いますが、その辺の仕組みを上手くまねしていくところだと思う。

一括交付金について、新見市はできるところからやっているというのが見てきた感想で、それが現実的な話かと思う。まだやらなくてもいいと言う地域から、佐治のように今すぐにでも指定管理を、という地区まで、かなり幅が広がっている現状なので、やりながら作っていくしかないと思っている。これは今度のフォーラムでも大事だと思うが、新見市も豊岡氏も市長がやるぞと言いきってくださっているので庁内が統一して動けるといふところがある。どういう形にするのかは地域に選ばせるが、市としてはそっちの方向感で動いているという話をしっかり発信していただいた方が担当課も動きやすいと思った。

最後に地域による公民館運営は、公民館指定の解除の伝え方とか指定管理の導入のメリットデメリットが当然あるので、そこはちゃんと整理して伝えた方が、後々大変にならないと思った。

(委員)

私は予定があつてどちらにも行っていない。今資料を見ていたが、こういう視察で行った時にはいいことばかりしか答えられないというのが普通で、結果的にやっぱり失敗だったとかそういう部分があるかと思う。そういうところを探っておかないといけないと感じた。それから資料を見るとどちらも防災に関して

ひとつも書いてないということがある。防災であればみんなかなり関心をもってもらえるし、住んでいる人の中で公民館を知らない人がほとんどだと思う。もう少し公民館のPRといったものがあつたらいいし、そういう人たちの関心を引き付けるのが防災だろうという感じがする。町内会の加入率も、「あなたの命を守る地域」という切り口から攻めていけば何か違う展開になるのではというのが今聞いていた感想である。

(委員長)

どうしても地域おこしの方が発信しやすかったり分かりやすかったりするが、全市的に最終的に巻き込んでいくには防災だろうなと私も感じている。

2か所にわたっての視察の方、ありがとうございました。参考にしながら今後の議論に加えていければよいと思う。

(委員)

市にお尋ねしたい。今公民館がコミュニティの拠点ということだが、実態をつかんでおられるか。公民館を使われている方への指導力アップのための教育というのがどうなっているのか。コミュニティの場にしては馴れ合いという感じがしており、社会性という面での連携が弱くなってきている。

(事務局)

公民館職員のということだろうか。職員研修は平成28年頃から本格的に体系立てて取り組みを始めている。公民館職員も一般の行政職員であるため、鳥取市の行政課題、例えば男女共同参画に視点を置いた研修やマイナンバー研修、アイサポート研修といった基本的な研修を積んでいる。また、教育委員会の取り組みで、今年度から鳥取県の教育委員会と一緒に社会教育の専門研修を始めている。今後の社会に対応した公民館づくりというのが最近の公民館の課題で、もともと公民館は戦後の復興を担う地域の総合拠点ということで始まったが、そういった原点に帰る公民館のあり方というのを今考えて取り組んでいる。

まちづくりについても、まちづくり研修を行っているが、今後のまちづくりを一体どの様に公民館職員が支えていくのがいいのかというところはこれから取り組むべき課題であると思っている。地域のファシリテーターの役目といったことも今年度の社会教育の専門研修で取り組みを始めている。スキルをさらに磨くといった研修はこれからやっていく必要があると思っている。

(委員長)

条例の見直し検討ワークシートは皆さんの宿題としてまた提出していただき

たい。

(委員)

公民館が設置されたのが1949年で、社会教育法が制定されて各地に設置された。昭和24年からなのでもう70年ということで公民館もその間にずいぶん変わってきていると思う。その流れを見ながら公民館のあり方を議論した方がいいという感じがした。

(委員)

公民館も公民館職員も協働の取り組みが大事で、うちだけかもしれないが公民館職員が意気を感じてやっておられる。地域コーディネーターの役割もだが、各種団体でいろいろな課題を共有して積極的に取り組んでいただいている。地域の雰囲気やコミュニティの取り組みの姿勢が公民館自体に表れてくるのではないかと思う。

(委員長)

今回の投げかけにおいて地域として公民館とどう向き合うかが一つポイントになっていくと思う。地区人口が多く一、人当たりの対応市民数が非常に多くなったりしているところもあるし、地域おこしの事業をされている地区でも公民館職員のやる事がどんどん増えているといった声も聞いている。その辺りは現場に即しつつうまく状況整理して、我々で事例等汲みながら答申ができればよいと思う。

小委員会は前回ご相談させていただいたような形で開催させていただく。また来年度に報告をさせていただきたいと思う。皆さんの書いていただいた資料をじっくり読もうと思う。

続いて、参画と協働のまちづくりフォーラムについて、事務局の方から説明をお願いしたい。

(事務局)

【資料6説明】

(委員長)

ポイントは中身になると思うが、鳥大の先生からのお話が40分、そのあとモデル地区の3地区から説明をしていただき、最後に市長を交えてパネルディスカッションというような構成となっているが、中身について気になる点はあるだろうか。

(委員)

全てのモデル地区が発表するのか。内容は市が精査するのか。

(事務局)

資料1の地域組織のあり方検討の各地域のご意見のところの内容のことだと思う。これは組織の見直しのポイントに注力した書き方になっていて、それぞれの団体がどういう活動をされているというところまで至っていなかったことは反省している。参考までに、用瀬地区ははねそ踊りや地域の伝統行事の継承といったことが今回鳥取県知事表彰にも選ばれているが、それぞれの地域で独自の取り組みをされている。発表いただく際には組織の見直しのポイントも言っていただくことになると思うが、地域でやっておられる特色ある取り組みも併せて発表する機会を設けるのであればそういった時間も必要かと思っている。またそれぞれの地域の取り組みの実績報告がまとまってきた段階でこの委員会でも共有できたらと思っている。

(委員)

講演の先生の情報をもう少しいただきたい。社会教育でどんなことをしゃべられるのか気になる。

(事務局)

まだ下話の段階だが、今鳥取市の社会教育委員を受けていただいている、鳥大の竹内先生にお願いしたいと思っている。先ほどの説明の中にもあったが、社会教育委員会議の中で、今こちらで話をしている地域組織のあり方検討と関連して、特に一括交付金も進めている中で社会教育というものが地域づくりとこれからどう関連していくべきなのかというところを議論していただいている。それに伴って今年度社会教育委員会議としての提言をいただけないかということで進めていただいている。そういったことを踏まえながら正に地域づくりと社会教育をこれからどうやって進めていったらいいのかという視点でお話しいただけたらと考えている。

(委員)

会場が狭いから数が限定されると思うが、これから将来を担う若い人も参加できるような形を考えていただければと思う。

(委員)

小学校PTAや中学校PTAに声をかけてもいいかもしれない。

(委員長)

小学校PTAの立場からすると、公民館からの動員は基本的に重たい印象があり、皆さんのモチベーションがほぼゼロで参加するという形になる。プラス大学の先生のお話となった時に相当ハードルが上がるのではというのが正直なところ。やはり社会教育とばっと言われても分からない。声掛けはできるが、私は動員ですという顔をした人たちがぎりぎりの時間に来て一番後ろに座り下を向くというのが簡単に想像できるので、声掛けを上手にやらないと今後來なくなるといふことと、中身によっては大学の先生の話は、とても面白いが、理論ばかりでちょっと向かないなという話と2つに分かれる。どういう先生が来るのか分からないので、理屈としては分かるがPTAの動員は危険な気がする。

(委員)

まちづくり協議会から出したらいいか。まちづくり協議会の中にはPTAの組織も入っているの。

(委員)

違う分野の方には違った発想というのがあるはず。参加者を地区公民館関係者と限定しているが、地区公民館はこんなもんかなというマンネリ感がしている人ばかり集めても改革ができないのではと思う。講師の人についても、実践ありきでやっている人が来ればいいが、理屈や理論ありきみたいな人が多い。理論だけでやっている人は面白くない。

(委員)

昔はPTA役員として地域デビューをして、子どもの卒業後も地域の活動に入っていく人が多く、それが一つのコースとしてあった。今そのコースのどこかが途切れているようなところがあり、これを逃すとなかなか地域の担い手として育てていかない。年齢が若ければいいというものではないが、地域をよくしていこう、楽しくしていこうという気持ちのある人を一人でも多く育てていく取り組みとして各年代の人に呼び掛けていくとなると各地区3名の参加では難しい。まちづくり協議会会長と公民館長ともう一人になってしまうのではないか。

(委員長)

とりあえず3人に限らずにしてはどうか。

(委員)

5人くらいにしてできるだけ各地区で若い人に出てもらうようにしてはどうか。

(委員)

場所についてはこれでいいだろうか。

(委員長)

場所をいくつかピックアップし直していただけたらと思う。人数や世代ギャップもだが、ジェンダーギャップというか、女性に出てきていただくことも考えておかないといけない。参加者や場所の関係について少し調整いただきたい。今回社会教育委員会議と一緒に企画するということも大事だと思う。大枠としてはこういう形でさせていただこうと思う。

(委員)

日にちを決めないといけないのではないか。

(委員長)

会場が変わると日程も変わってくるが、今の時点でダメな日はないか。土日だとどちらが出やすいか。

(委員)

土曜日がよい。

(委員長)

運動会がある時期なので日曜日は避けた方がいいと思う。土曜日で調整していただきたい。

では事務局にお返りする。

(事務局)

小委員会は第1回を3月10日に予定している。令和2年度の第1回委員会は4月の中旬になろうかと思うのでまたご意見をいただきたい。本日は大変お忙しい中ありがとうございました。